

昭和四年五月一日發行

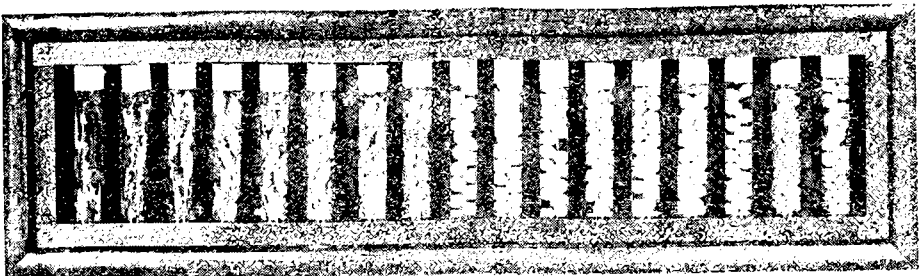
鮭 鱒 彙 報

第 一 卷 第 一 號

昭 和 四 年 五 月 一 日

北 海 道 鮭 鱒 孵 化 事 業 協 會

(北 海 道 廳 水 產 課 內)



鮭發生標本實費配布

一組金 五圓 送料不要

教育、學術、産業上の好資料たる鮭發生標本を作
製し前記實費を以て配付す、体裁優美にして室内
裝飾品としても好適す至急申込あれ

北海道鮭鱒孵化事業協會

北海道廳水産課内

刊 創 祝

旅人の船や車の
疲れをば心安すらに
宿むる館は
北海道鮭鱒孵化事業協會指定

越 中 屋 旅 館
札幌停車場前

電話 三、五二六番
三、五七九番

(室内電話ノ設ケアリ)

刊 創 祝

北海道鮭鱒孵化事業協會指定
札幌市北一、西五、電話交換局前

阿 部 旅 館
阿 部 徳 次

電話 三、二一〇番
三、三三八番

(各室、室内電話ノ設備アリマス)

目次

發刊之辭

會長 北海道廳產業部長 內藤晴三郎(一)

鮭鱒彙報の發刊を祝す

北海道廳水産課長 小石季一(二)

鮭鱒彙報發刊に當りて

北海道廳技師 半田芳男(三)

資料

北海道鮭鱒孵化事業要覽

(四)

雜報

第二回鮭鱒孵化技術練習生養成

(一)

三年度道内孵化場親魚捕獲採卵狀況

(二)

民營孵化場の新設並に増設

(五)

昭和三年度鮭鱒卵子分選狀況

(五)

水産獎勵金下附の狀況

(六)

官營孵化場の本年度事業計劃

(八)

水産獎勵規程中の人工孵化事業計劃様式

(九)

ホワイト、フイツシュ(白鱒)の移植

(一〇)

會報

昭和三年度本會事業計劃

(三)

昭和三年度本會收支豫算書

(三)

本會役員決定

(三)

本會職員任命

(三)

會告

一、寄稿歡迎

二、質疑應答

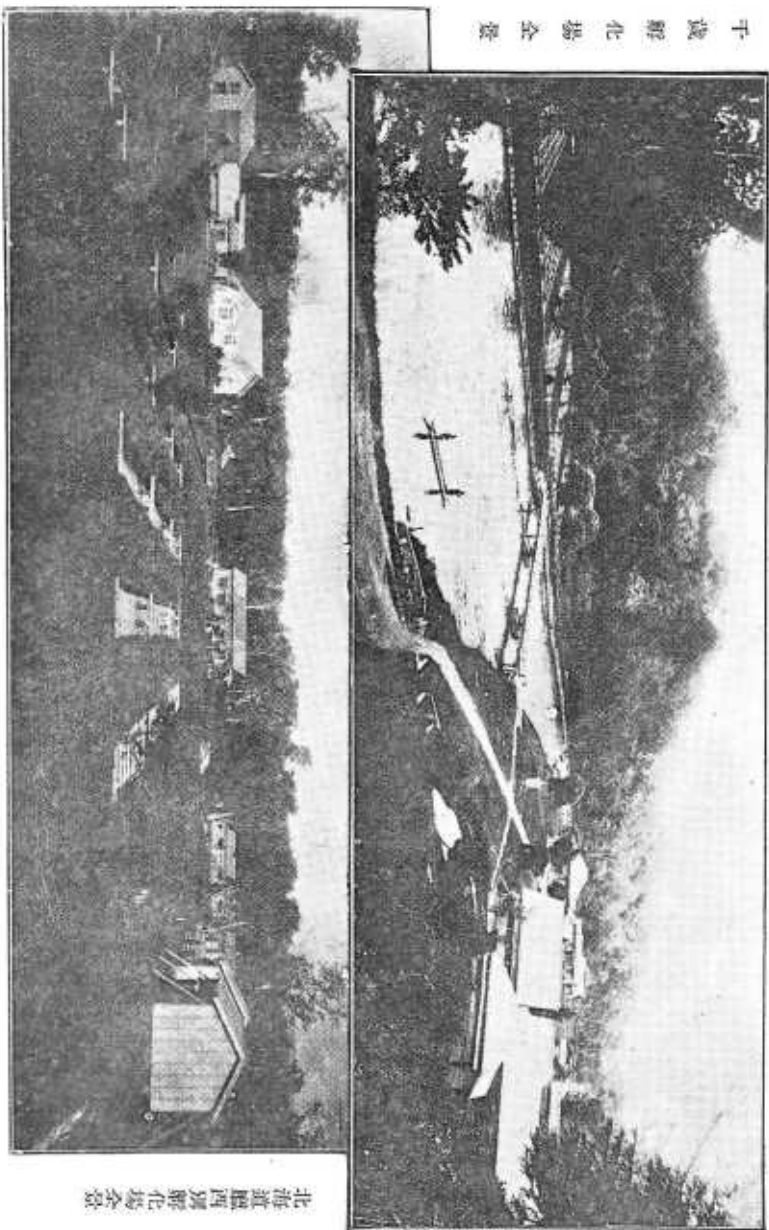
三、受托事務

四、廣告引受

五、會員募集

六、孵化場寫真募集

千歲解化場全景



北海道廳西濱解化場全景

發刊之辭

會長北海道廳產業部長

內藤晴三郎

本會は鮭鱒孵化事業の改良發達並に連絡統一を圖るを以て目的とし、本道産業の發展に貢獻せんごす。

抑々本道水産業の大宗たる鮭鱒魚族増殖の目的を以て孵化事業の創始せられてより既に五十年、爾來漸次發展の道程を辿り現在孵化場數五十、一ケ年の孵化放流數五億を算するの盛況を見るに至る。然るに本道内陸の開發に伴ひ孵化事業に對する各種の障害起り、其の效率近時漸く減少せんごす。此の故を以て斯業に關係する者一致協力更に一段の努力を要す。

茲に本會は施設の一端として「鮭鱒彙報」を發刊し鮭鱒孵化事業に關する學術技藝の普及に努めんごす。幸に事業關係者の知識を啓發し、斯業の改善發達に資するを得は本懷之れに過ざるなり。希くは會員並に斯業關係者諸氏此の意を諒せられ哺育善導本誌發刊の目的を完せられん事を切望してやまざるなり。一言以て發刊の辭と爲す。

鮭鱒彙報の發刊を祝す

北海道廳水産課長

小石季一

本道の水産施設は數あるが漁撈製造養殖の三方面相並て發達したものは鮭鱒漁業であつて本道の誇と信ずる。鮭鱒の蕃殖を阻害する各種の障害は文化の進歩に伴て益々多くなるにも不拘相當の産額を維持し得るのは實に官民協力による人工孵化事業の賜である。第二期拓殖計畫の實施に當りて斯業の助成に多額の國弊を支出さるゝ所以は實に斯業の重要視さるゝことを語るものである。

然れども斯業の効果を更に増進するには事業關係者の不撓不屈の大努力を必要とすると共に相互の連絡協力を保つことも缺く可からざることである。これが北海道鮭鱒孵化事業協會の生れた理由である。而して其の目的を貫徹する一手段として本誌の創刊を見るに至つたのは實に慶賀に堪へない。

英國に鮭鱒協會とでも言ふ様な團體があつて矢張り鮭鱒雜誌を發刊してゐるが其内容は仲々充實して居て參考となる事柄が非常に多く廣く世界に頒布購讀されてゐる事は常に羨ましく考へて居るが希くは本誌も之に劣らない發展を遂ぐる様にし度い。唯特に注意を促して置くは其の内容は余りに學究的ならず又余りに俗受けに汲々たらずよく本會の目的を達するに必要な中庸の道を確乎たる足どりて進んで欲しい。本誌は會員のものである將來發展するも又不振になるのも要は會員各自の責任に歸する事を自覺しお互に熱心に援助すべきである。

鮭鱒彙報の發刊に當りて

北海道廳技師 半田芳男

鮭鱒彙報の發刊に當りて感想を述へて祝辭に代へ更に其前途を祝福し度い。

回顧すれば今から十年計り前の事である。本道官民孵化事業關係者の協議會が開催された時にお互の連絡統一を圖り事業が効率の増進を期する方法を講じやうではないかと言ふ自分の提案が幸ひにして容れられ其結果として孵化事業研究會生れ水産試験場に本部を置き不肖その事務を擔當しておつた。然し微力不才にして實のところ何等見る可き活動もなく僅かに貧弱極る會報が四回程出たに過ぎなかつた。然かも自分が本廳へ轉じたため事實上中止の形となつて了まつた。然し其間孵化場の數は急増し殊に第二期拓殖計畫の實地に伴ひ孵化事業の奨励方針も確立し一定計畫の下に進行を圖る事となり事業關係者の一致團結は各方面に對して緊要となり一面本廳の養殖行政を後援する必要も認められ協會と形を變へて名實共に備るものとなつた事は慶賀に堪へない所である。而して其事業の一部として鮭鱒彙報なる機關誌が孤々の聲をあげた事は更に慶を重ねた次第である。

本協會が生れ本誌が出た事は鮭鱒孵化事業の隆昌を極むる本道としてはむしろ其機がおくれたりと稱してよからうが後れたりとも雖も之有るに若かずで然も其形式實質共に堅實でありとしたならば正に世界に誇るに足るものと言へやう。従て本會を構成する會員とこれを指導援助する當局との發奮努力は重大なる役目である。希くは本會員はお互に本誌を利用しその目的達成につとめられん事を。

北海道鮭鱒孵化事業要覽

(北海道廳水産課孵化事業計劃ニヨル)

本道水産の大宗たる鮭鱒漁業は其漁獲法、漁業組織等は顯著なる發達を遂げたが漁獲高は年を逐ふて減少した。これは鮭鱒の回歸數量が減少した爲である。乃ち其減少を防ぎ更に進んで増殖を圖るの必要ある所以である。然るに内陸の開發は曠々乎として進み鮭鱒蕃殖上絶対必要なる河川内産卵床は荒廢し其天然蕃殖を便つて居ては如上の目的を達する事不可能であつて更に効率大なる人工孵化に俟たねばならない時代と成つた。

孵化事業の沿革

本道の鮭鱒蕃殖施設の跡を顧みれば天然蕃殖を重視した時代と人工蕃殖に主力を注いだ時代とに分かれる。而して前者は本道開拓以來行はれ明治二十年頃迄に衰退し次いで後者が次第に據頭し逐年盛大となり且其内容充實して現今に及んでる事は誠に興味ある事である。

(一) 天然蕃殖の沿革

本道鮭鱒天然蕃殖施設の起源は記録に残つて居るものに徴すれば安政年間であつて當時幕命を奉し石狩に駐屯した荒井金助なる者が豊平、發寒兩川に於ける親魚濫獲に依り減少せるを患ひ部下をして監視せしむる事三年に及び漸く遡上數を恢復したと云ふ事である。開拓使に至り河川内の鮭鱒蕃殖には相當注意を拂つたが明治六年にウライ網の設置を禁じ七年には豊平川以外の諸川に於て曳網、夜間漁業を禁じ十一年には札幌郡内諸川にて鮭鱒漁獲を一切差止め十六年西別川外四十川の漁場數を制限し産卵期を保護した四項は最も顯著なる事であろう。然し更に具体的に天然蕃殖施設を事業化したのはこれよりも後である。即十二年に吏員を越後三面川に派し視察せしめた結果天然孵化を保護するを有利なりと斷じ一方人工孵化試験を行ひ其勃興を見んとして居るにも不拘益々天然蕃殖に力を注いだ事は次に述ぶる所である。十四年には遊樂部川に附近住民の事業として三面川流の柵を設けて産卵をなさしむることを試み十五年より二十一年に至る間には石狩川外二十七川に木廳より看守人を派し産卵期を保護し更に其監督吏員を出して事業の万全を期した。斯く天然蕃殖に就ては官民協力し大に勉めては居るが鮭鱒の漁獲は依然として減少する一方であるので其効空しきを覺り二十一年千歳孵化場の

創始を轉期として人工孵化万能時代が芽生へるに至つた。然しこの天然蕃殖施設は今日人工孵化の効果を補鑿するに必要なる保護河川の指定や禁漁區の制定其他の取締規則の實施等をして容易ならしむる素因を造つた事は見逃してならない貢獻と思はる。又現今千島地方に行はるゝ天然蕃殖事業は其實行上原始産卵床が有るために有意義なる事も昔の教訓に負ふところ大なりと信ぜらるゝのである。

(二) 人工孵化事業の沿革

此時代は明治十年より現今に至る間であつて其内を試験時代事業化時代とに二大別して見る事が出来る。

試験時代。天然蕃殖と人工孵化との効果の優劣につきては何所でも必ず經驗する論議である。本道に於ても昔は可なり深刻に議論され前項に記した如く三面川を調査した結果天然蕃殖を探ることに廳議を決定した位である。然し此際に於ても人工孵化に關して試験を行ふ事は怠らなかつた。即明治十年札幌市階樂園に於て當時の開拓使雇外人教師ユー・エス・トリート氏の進言に依り鱒卵の人工孵化を試みた。これが本道に於ける斯業の濫觴である。續いて翌十一年には七飯試験所にて鮭卵の人工孵化試験を爲した結果愈々其實用化の可能性を確め茂邊地川、及部川、柳川等に民營孵化場が設けらるゝに至つた。

事業化時代。人工孵化試験の結果民營孵化場が出来たがそれは小規模であつて然かも道南の一角に僻在するに過ぎなかつた。然るに二十一年十一月千歳孵化場が設けらるゝや俄然世人の注意を惹き一、二年の後に十二箇所の民營孵化場が本道中部に設けらるゝ様になつた。二十三年より二十五年には西別、標津、羅臼、當路等の孵化場が根室、千島に興つた實に千歳孵化場の創設は本道孵化事業勃興の礎を置いたものであつて其計劃者の卓見と實施者の果斷とに敬服す可きである。爾來大正十五年に至る迄は到處の重要河川に孵化場の創設あり殊に道廳は千歳、西別、留別の三孵化場を經營して民營の指導をなし模範を示し一方地方費補助の制度を設けて經營の安定に資した。斯く官民協力の結果は鮭漁業の危機即ち明治四十一年の大不漁以後の漁獲高を漸次恢復せしむるに至つたのである。

今日吾人の直面する時代は次章の現況に詳かであるが本事業の組織内容共に備はるに至つた。即第二期培植計劃の實施に伴ひ孵化事業の經營及獎勵は凡て國費に依り殊に民營事業の獎勵は從來の放流數を基礎とする補助金制を改め所要經費

に對し補助するの英斷に出て事業經營の安定に貢獻して居る。而して千歳、西別、留別の孵化場は道廳直營として事業の統一を圖り其目的の達成に勉めてをる。

北海道鮭鱒族魚類孵化事業沿革概要

明治十年九月札幌階樂園に於て漁川、豐平川産鱒卵を孵化す。十一年七飯試驗所に於て茂邊地川産鮭卵を孵化す。十二年茂邊地川に孵化場設く。十三年及部川に孵化場設く。○二十年柳川及知内川に孵化場設く。二十一年十一月千歳川に孵化場設くるや壯督、禮文華、洞爺、幌別、白老、錦多峰、染退、木古内、利別等の諸川にも之に倣ひて興る。二十二年厚真川、勇拂川、苫小牧川に孵化場設く。二十三年西別川、當路湖に孵化場設く。二十五年標津川、羅臼川に孵化場設く、千歳孵化場に於て始めて漆盆を試用す。二十六年阿寒湖産鮭移殖の適否を試験す。二十七年前年の成績に鑑み鮭鱒を支笏湖に移殖し翌々年に及ぶ。二十九年千歳孵化場に於て始めて捕魚車を試用す。三十一年濱益川に孵化場設く。三十二年楯株川、斜里川、十勝川に孵化場設く、千歳孵化場に於て切開採卵法を創む。三十三年伊茶川、東沸湖に孵化場設場設く三十四年遊樂部川孵化場設く。三十五年石狩川に孵化場設く、千歳孵化場に於て仔魚日射防止法を創む、石崎川に於て鮭人工孵化を試験す。三十七年菅根別川に孵化場設く。三十九年上磯川に孵化場を設く。四十二年洞爺湖に支笏湖産鮭鱒を移殖す。四十三年尻別川、留別川に孵化場設く。○大正元年屯別川に孵化場設く。四生二木城湖ウルモベツ(紅鱒)孵化場設く。五年奔別川に孵化場設く。六年日光より千歳に虹鱒を移殖す、徳志別川に孵化場設く。八年當幌川に孵化場設く。九年上當幌、天鹽川、紗那川に孵化場設く。十年泊川に孵化場設く。十一年利別川、新冠川、釧路川、網走川、洞爺湖(鮭鱒)に孵化場設く。十二年敷生川、三石川、歷舟川、蕨別川、湧別川、老門川に孵化場設く。十三年勇拂川、幌別川、風連川、有崩川に孵化場設く。昭和元年農林省増殖獎勵規則に依り標津外十五孵化場獎勵金の交付を受く、北海道産鮭鱒種卵四千三百五十万粒を内地へ移殖す。二年千歳、西別、留別三孵化場國費經營となり民設孵化事業補助は之亦國費となる、北海道人工孵化事業取締規則公布さる、釧路川、尾幌川、常呂川に孵化場設く、余市川産鮭を敷生川に移殖す。

孵化事業の現況

(一) 事業の種類及規模

種	類	孵化場		官	民	計	官	民	計	官	民	計	官	民	計
		官	民												
鮭	人工孵化	三	四			七			七			七			七
鮭	人口孵化	二	〇			二			二			二			二
紅鱒	人工孵化	一	一			二			二			二			二
紅鱒	人口孵化	二	一			三			三			三			三
鮭	人口孵化	四	二			六			六			六			六
鮭	人口孵化	七	四			一一			一一			一一			一一
鮭	人口孵化	五	七			一二			一二			一二			一二
鮭	人口孵化	二	五			七			七			七			七
鮭	天然蕃殖														
		擇捉島	十一			一一			一一			一一			一一
		國後島	六			六			六			六			六
		湖川													

備考 鮭人工孵化場ハ凡テ鮭人工孵化場ニ併置サル。
事業經營者

種	類	官	民	計	官	民	計	官	民	計	官	民	計	官	民	計
鮭	人工孵化			六			六			六			六			六
鮭	人口孵化			二			二			二			二			二
紅鱒	人工孵化			一			一			一			一			一
紅鱒	人口孵化			二			二			二			二			二
鮭	人口孵化			四			四			四			四			四
鮭	人口孵化			七			七			七			七			七
鮭	人口孵化			五			五			五			五			五
鮭	天然蕃殖															
		擇捉島	十一				一一			一一			一一			一一
		國後島	六				六			六			六			六
		湖川														

胡瓜魚人工孵化	1	1	1	1	1	1	1	1	1
柳葉魚人工孵化				1	1	1	1	1	1
蛙鱒天然蕃殖	1	1	1	1	1	1	1	1	1

備考 () 内数字ハ孵化場数ヲ示ス

(三) 經營費及收入

昭和二年度の水道鮭鱒孵化事業經營費は總額三十五万六千八百四拾六圓であつて其内譯は官營五万九千七百六拾九圓民營二十九万七千〇七十六圓である。官營は己定計劃に依るものであるから別とし民營は採卵後の親魚賣却代と補助金を以て支辨されてゐる。之を鮭鱒百万粒を採卵孵化するに要する經費に割當つれば約千〇六十六圓であつて之に對する収入は七百〇七圓となる。

(四) 補助

本事業に對する補助金は凡て國費に依る。水産獎勵規程を以て孵化場の新設改造に對しては其費用の二分一以内事業經營費に對しては其十分ノ三以内と定めらる。昭和二年度に於ける補助金交付額は新設改造に對しては八件一万五千四百九十二圓、事業費に對しては四十件二万〇六百九十七圓、合計三万六千八百八十九圓である。

(五) 民營孵化事業に對する取締監督

孵化事業は公益を圖る目的を有する以上其公正誠實なる經營を爲す必要あるは明かであり一方道廳は補助獎勵を行ふ以上其取締、監督、指導を全うする必要上北海道鮭鱒人工孵化事業取締規則を制定し本廳に専任監督員をおき或は各官營孵化場、水産試験場員を兼務監督員として万全を期してをる。

(六) 事業成績

大正十二年度以降昭和二年度に至る五ヶ年平均の事業成績を示せば次の如しである。

種 類	親魚捕獲數	使用親魚數		採卵數	放流數	摘 要
		雌	雄			
鮭 人 工 孵 化	三〇、八七〇	二九、四三四	八六、八〇五	二五、七六二、四四四	二七、八四一、八八四	
紅 鱒 人 工 孵 化	八、五五五	一八、〇五八	一五、六四六	三、一〇〇、九七〇	三、八八六、一〇〇	
鮭 人 工 孵 化	二五、〇〇〇	一三、三三六	五、〇三三	四、七〇七、五〇〇	三、九四〇、九八八	
鮭 人 工 孵 化	四、五五〇	八、九六三	三、八八三	三、四七九、〇〇〇	三、一〇七、一八八	尻別川、朱太川、余市川二年度成績
鮭 人 工 孵 化	一七、八五五	一、四九七	二、八六九	三、九五〇、〇〇〇	二、一五四、五〇〇	成績
鮭 人 工 孵 化	?	三、七二六	三、六四七	三、八七〇、〇〇〇	二、八二〇、〇〇〇	二年度成績
胡瓜魚人工孵化	三、四〇〇、〇〇〇	四、八五三	七	一、五五〇、〇〇〇	六、四〇〇、〇〇〇	天津、根室二年度成績
柳葉魚人工孵化	二七、〇〇〇	三、〇〇〇	五、一〇〇	〇〇〇、〇〇〇	五、二五〇、〇〇〇	沙流川二年度成績

孵化事業計劃

孵化事業の性質より觀れば之を擧げて國營と爲すを適當と認むるも遽に之を實現し難きに依り第二期拓殖計劃に於ては増殖上最も重視せらるゝ千歳、西別、留別の三孵化場を官營とし併せて必要なる試験を施行し一般に模範を示す。其の他の河川は凡て民營孵化事業を以てし之を補助する事となつた。此計劃の概要を示せば次の通である。

(一) 計劃の目標

水道の鮭鱒漁業をして安定ならしむるには少くとも鮭八万石、鱒十万石漁獲を必要とするも其増殖計劃の實行には多額の經費を伴ふので直に實現し難く現在の平均漁獲高たる鮭四万五千石、鱒三万五千石よりも下らしめざる増殖施設を計劃されてある。

(二) 所要孵化放流數

右目標の達成に要する採卵數及孵化放流數は年々累加せしめ鮭は十四年目に三億五千万粒より二億八千万尾を鱒は十八

年目に三億九千万粒より三億一千二百万尾を放流し以後これを繼續する豫定である。即其の年々の進度豫定表を示せば次の通である。

年 度	鮭 採 卵		計 数	官 營		計 数
	官 營	民 營		官 營	民 營	
昭和二	八千万粒	一億四千万粒	二億二千万粒	一千五百万粒	一億九千万粒	二億一千万粒
三	八千五百万	同	二億二千五百万	同	同	同
四	九千万	同	二億三千万	同	同	同
五	一億二千万	同	二億六千万	同	同	同
自一〇	一億四千万	同	二億八千万	三千万	同	二億二千五百万
自一三	同	一億七千万	三億一千万	同	同	同
自一四	同	同	三億一千万	同	同	同
自一七	同	同	三億五千万	同	同	同
自一八	同	同	同	同	三億六千万	三億九千万

備考 放流数へ前記採卵数ノ八〇%トス

(三)放流数と回帰豫想数

鮭年産四万五千石を期待するには少くとも其五年前に三億五千万粒を採り二億八千万尾の稚魚を放流する必要がある。即放流数の約一%回帰して計生産額を見る事となる。鱒は真鱒(俗稱櫻鱒)と樺太鱒(俗稱脊張鱒)と二種あり。真鱒は四千万粒採卵より三千二百万尾を放流し其二・五%の回帰と見て八十万尾(一万石)となる。樺太鱒は三億五千万粒より二億八千万尾を放流し其一・二%の回帰と見て三百万尾(二万五千石)となる。兩者合計して計生産額となる見込である

(四)實施方法

本計劃の實施は昭和二年度より向ふ二十年間であつて千歳、西別、留別の三孵化場は道廳直營として當該河川の鮭鱒増殖を爲すと共に各種の試験調査を爲し或は種卵の配給、民營孵化場技術員養成等を行ふのである。其他は凡て民營に依る孵化事業であつて其獎勵補助、取締監督を道廳が行て其の目的の達成を期するのである。

雜 報

第二回鮭鱒孵化技術練習生養成

道廳水産課に於ては第二回鮭鱒孵化技術練習生を募集し昨年十二月十日より千歳孵化場に於て養生しつゝあつたが去る三月十八日を以て終了したので左記四名に對し修業證書を授與した。

紋別郡上湧別村字中湧別	平 間	末 吉
檜山郡厚澤部村	石 山	徳 次 郎
川上郡弟子屈村大字屈斜路村	太 西	久 光
厚岸郡厚岸町	大 丸	徳 次 郎

三年度道内孵化場親魚捕獲採卵狀況

【道廳水産課發表】三年度道内各孵化場の親魚捕獲並に採卵は鱒にありては良好であつたが鮭にありては未曾有の不況を呈した、之れを前年度に比較するに鱒親魚の捕獲數二十五万一千四百五十尾、採卵數四千九百八十四万五千七百七十粒で十七万四千四百四十八尾、千九百九十一万九千二百四十粒を各増加した。鮭にありては捕獲數二十一万四千四百二尾、採卵數一億七千七百九十五万二千四百八十粒で八万三千九百四十二尾、九千六百六十四万七千六十尾を共に減少した、各孵化場別親魚、捕獲採卵狀況表の通りである。

昭和三年度鱈親魚捕獲採卵表

場名	親魚				採卵數	採獲數	採卵數	比較增減	採卵數	比較增減
	七月	八月	九月	十月						
尻別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
朱太	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
旗株	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
奔別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
標津	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
伊仁	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
上當	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
風連	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
老那	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
紗那	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
有前	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
斜里	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
網走	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
常呂	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
頓別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
德志	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
幌別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
天鹽	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
西別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
留別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
千計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
前年度同	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
比較增減	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

昭和三年度鮭親魚捕獲採卵表

場名	親魚				採卵數	採獲數	採卵數	比較增減	採卵數	比較增減
	九月	十月	十一月	十二月						
尻別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
朱太	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
利別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
上内	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
知雲	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
八流	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
長生	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
敗生	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
勇松	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
染退	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
幌別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
新冠	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
沙流	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
三石	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
元川	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
十浦	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
千計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
前年度同	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
比較增減	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

吉嘉内	尾路	奔津	伊茶	羅白	當幌	薫別	風蓮	東木	二城	泊路	當路	紗那	老那	有那	別那	斜里	網走	常呂	湧別	頓別	總志	幌別	天鰓	千島	西島	留別	計	前年度	比較増減		
1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000		
1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	
1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000	1,139,000

◎ 民營孵化場の新設並に増設

昭和三年度鮭鱒卵子分譲状況

【道廳水産課発表表】

本年一月以降に於て新設並に増設の許可ありたる民營孵化場次の通りである。

【道廳水産課発表表】

三年度に於て千歳孵化場外四ヶ所より分譲した鮭、鱒、樺太鱒、紅鱒、姫鱒及虹鱒の卵數並に分譲先次の通である。

新設	増設	種類	卵數	分譲先
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	五万粒	洞爺湖漁業組合
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	二万粒	工藤竹雄
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	二万粒	京都博覽會
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	一万粒	齋藤甚之助
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	一万粒	齋藤完吉
比良系 孵化場	比良系 孵化場	鮭	二十万粒	國坂方所
千歳孵化場	千歳孵化場	鮭	二十万粒	國坂方所

千歳孵化場	計	百	七十	百	七十	百	七十	百	七十
利別孵化場	上ノ國孵化場	敷生孵化場	勇拂孵化場	尾幌川孵化場	五箇所	洞爺湖孵化場	阿寒湖孵化場	函館市役所	日高水産會
二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒

留別孵化場	計	二百	四十	二百	四十	二百	四十	二百	四十
根室養殖水産組合	養殖水産組合	根室養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合	養殖水産組合
二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒	二百二十萬粒

洞爺湖漁業組合	計	十	二十	三十	五十	八十
阿寒湖孵化場	支笏湖孵化場	二箇所	神奈川水産試験場	秋田縣水産試験場	二箇所	
十萬粒	二十萬粒	三十萬粒	五十萬粒	八十萬粒		

水産獎勵金下付の狀況

昭和三年度中北海道廳に於て鮭鱒孵化場の新設又は改造に對する獎勵金下付願を受理したるもの十件にして、特殊の事情あるものを除く外悉く經費の十分の五の補助金を下付せられた。只新冠川孵化場は其の敷地が御料地なる爲めそれが使用の許可後れ中止の止むなきに至つた事は誠に遺憾である。

其の總補助指令金額は一萬五千二百二十九圓にして昨年度の一萬五千六百四十二圓に比して殆ど差異がない。其の補助金の交付を受けた者は左の通りである。

出願者	孵化場名	指令金額	摘要
根室養殖水産組合	元浦川鮭孵化場	七、七新設	
根室養殖水産組合	三石川鮭	七、七新設	
根室養殖水産組合	新冠川鮭	一、二、三、三同	
根室養殖水産組合	新冠川鮭	一、二、三、三同	
根室養殖水産組合	新冠川鮭	一、二、三、三同	
根室養殖水産組合	新冠川鮭	一、二、三、三同	

壽都	兩漁業組合	朱太川鮭鱒	七、七水源改造
歌葉	水産會	吉嘉内鮭	五、五同
釧路	水産會	十勝鮭鱒	三、七、三孵化室移轉並養魚池改造
十勝	水産會	十勝鮭鱒	一、五、九水源並養魚池改造
紋別	水産會	紋別鮭鱒	三、六養魚池給水取入口改造
工尻	水産會	尻別川鮭	四、七水源改造
厚岸	水産會	尾幌川鮭	一、五、三同
合計			一、五、三同

次に採卵孵化放流事業に對する獎勵金下付願を受理したる件数は二十七件此の孵化場數四十三ヶ所捕獲採卵場一ヶ所にして從來の事業成績經營振の財政状態等を考査に加へ經費に對し最底十分の一弱最高十分の二の補助金を交付せられた、其の總補助指令金額は三萬一千二百圓であつて此を昨年度の二萬一千八百圓に比すれば一萬九千二百圓の増である。此れは本年度鮭の回歸數は稀有に少く各孵化場の打撃大なるものあるに鑑み北海道廳にては特に憂慮せられ他の獎勵費より流用せられた結果で孵化場經營者としては誠に感謝に堪へない次第である。今各孵化場の補助指令金額を示せば左の通りである。

瀨柳郡漁業組合	利別川	四、五、四
上ノ國村	天野川	二、四、七
遊樂部川鮭魚養殖組合	遊樂部	一、〇、〇
知内村	知内	一、四、五
長流鮭人工孵化組合	長流	一、〇、七
洞爺湖漁業組合	洞爺湖	七、〇、〇
勇拂	勇拂	八、七、〇
敷生	敷生	一、四、四、六
幌別	幌別	一、一、八
伊仁	伊仁	一、九、〇
標津	標津	四、四、〇
奔別	奔別	一、二、〇、〇
尾幌川	尾幌川	一、八、四
十勝内	十勝内	一、〇、〇、〇
十勝鮭鱒養殖水産組合	十勝鮭鱒	一、〇、〇、〇
十勝外四郡鮭鱒養殖水産組合	十勝外四郡鮭鱒	一、〇、〇、〇
釧路水産會	釧路	一、〇、〇、〇
厚岸水産會	厚岸	一、〇、〇、〇
根室鮭鱒養殖水産組合	根室鮭鱒	一、〇、〇、〇

出願者	孵化場名	補助指令金額
尻別川鮭鱒人工孵化組合	尻別	六、〇、〇
壽都歌葉兩漁業組合	朱太	四、〇、〇

國後水産會	東木	一、五、〇、〇
西別(捕獲場)	西別	一、五、〇、〇
風蓮	風蓮	一、五、〇、〇
上當	上當	一、五、〇、〇
當幌	當幌	一、五、〇、〇
羅白	羅白	一、五、〇、〇
伊仁	伊仁	一、五、〇、〇
標津	標津	一、五、〇、〇
奔別	奔別	一、五、〇、〇
尾幌川	尾幌川	一、五、〇、〇
十勝内	十勝内	一、五、〇、〇
十勝鮭鱒養殖水産組合	十勝鮭鱒	一、五、〇、〇
十勝外四郡鮭鱒養殖水産組合	十勝外四郡鮭鱒	一、五、〇、〇
釧路水産會	釧路	一、五、〇、〇
厚岸水産會	厚岸	一、五、〇、〇
根室鮭鱒養殖水産組合	根室鮭鱒	一、五、〇、〇

松崎榮次	泊路	二二七
榎原商店	當路	四〇二
榎原兵衛	老門	五五一
榎原水産會	別飛那	一、七三八
八木澤繁次	有飛那	九七二
谷茂平	有飛那	一、五〇〇
網走外二郡鮭鱒養殖水産組合	斜里	二、五〇〇
紋別鮭鱒養殖水産組合	常呂	九〇三
枝幸漁業組合	頓別	一、〇〇〇
天鹽鮭鱒養殖水産組合	徳志	一、一〇六
合 計	天 幌 鮭 鱒	三一、二〇〇

官營孵化場の本年度事業計畫

去る三月七日道廳會議室に於て官設孵化場長の打合會が開催せられた。右打合會に於て各孵化場の本年度事業計畫は左の如く決定せられた。

- 一、採卵、孵化放流數豫定

孵化場	採卵	孵化放流數	採卵	期間
千歳	四、〇〇〇	一、〇〇〇	自十月一日	自八月中旬
西別	三、〇〇〇	一、〇〇〇	自九月下旬	自九月中旬
留別	三、〇〇〇	一、〇〇〇	自八月下旬	自九月上旬
計	九、〇〇〇	三、〇〇〇	自八月下旬	自九月中旬

備考 千歳孵化場ニ於テハ五〇〇万粒、留別孵化場ニ於テハ一千万粒ノ設備ヲ新設ス。

- 二、種卵配付
各孵化場の採卵數豫定以上に達したる場合に民營孵化場に配付す。
- 三、孵化技術員養成
第三回孵化技術練習生五名を募集し十二月一日より三月末日に至る四ヶ月間千歳孵化場に於て養成す。
- 四、試驗
本年度に於て左の如き試驗を行う。

1 鱒人工孵化試驗

千歳孵化場に於て前年度に繼續し九月十日より採卵をなす。

2 親魚蓄養試驗

千歳孵化場に於ては鮭につき西別孵化場に於ては鱒につき施行す。

3 石狩川早期鮭増殖試驗

石狩川早期鮭増殖の爲豊平川に於て十月一日より實施す。
 4 豊平川鮎虹鱒移殖試驗
 豊平川に四月中鮎虹鱒を十月中鮎を放流し此の魚族の増殖を圖る。
 5 水源改造試驗
 西別孵化場に於て鑿井による地下水を以て孵化用水とし病害豫防等の資料に供す。

事業計畫書

- 一、孵化場ノ名稱
- 二、孵化場ノ位置
- 三、放流スヘキ魚種
- 四、卵子收容能力
- 五、所要親魚數
- 六、本年度採卵豫定數
- 七、同放流見込數
- 八、養魚池面積
- 九、放流時期
- 十、本年度着業スヘキ親魚捕獲場ノ位置捕獲方法及設備捕獲時期捕獲豫定尾數(捕獲場別ニ)
- 十一、親魚蓄養方法
- 十二、卵子運搬方法
- 十三、密漁取締方法
- 十四、技術員數
- 十五、其ノ他必要ナル事項

水産獎勵規程中の人工孵化事業計畫書式

水産獎勵規程中の人工孵化事業計畫書樣式に關し道廳より各支廳に向け左の様な通牒が發せられた。關係者の參考として次に記して置く。

産水第二一九號

昭和四年一月三十一日

産業部長

各支廳長殿(石狩、空知、上川ヲ除ク)

水産獎勵規程第五條第四號(イ)ニ依ル人工孵化事業計畫書ハ樣式無キ爲メ記載事項區々ニシテ調査上支障不尠候ニ付客

備考 (イ) 鮭及鱒ヲ孵化スル孵化場ハ鮭及鱒ノ區別ヲ明ニスヘシ

(ロ) 孵化場ニケ所以上ヲ經營スル者ハ孵化場毎ニ記載スヘシ

ホワイト、フイツシユ

(白鱒)の移植

本道各湖沼河川に於ける魚類の生産力増進の目的の下に水産試験場に於ては米國及露國よりホワイト、フイツシユ(白鱒)卵を移植した。米國より移植せるものは同國『ミシガン』湖産のもので農林省水産局に於て輸入したる四百万粒中五万粒の分與を受け之れを千歳孵化場に收容し飼育試験に供して居る。露國より移植せるものは同國『レニングラード』東百二十渾『オルホ』河産のもので農林省水産局幹施に依り福井縣に於て輸入せるもの百万粒中五万粒の分與を受けたものである。二月二十四日洞爺湖幌鰓孵化場に收容し三月八日より十九日までの間に於て孵化したるを以て全部洞爺湖に放流した。

因に ホワイト、フイツシユは北米大湖地方及露國等に分布し居る鮭科の魚類であつて、成魚は体長二尺内外に達し体色光澤ある白色で脊部は淡き『オリープ』色を帯べるもの

で主として湖水、河川等に棲息し海に下ることなく味極めて良好であると。此の魚類が蕃殖するに至れば本道に更に一名産を増すに至るであらう。

シヤツド並に

クラツビーの移植

本年七月頃水産試験場に於ては今回農林省水産局に於て輸入する米國産優良魚のシヤツドとクラツビーの分讓を受けて本道に移植し此の魚族の蕃殖を圖ると大いに意氣込んで居る。

シヤツドの移植場所は未だ決定せられないがクラツビーは差し當り大沼の蓬萊沼に移植する事に決定した相であるシヤツドは一名河練の稱があつて主として米國東部地方に産し本道では釧路地方でこれにいたものが取れる事がある。

クラツビーは又川鯛とも稱すべきもので形も味も非常に上品で米國では盛んに増殖を講ぜられて居る。尙水産試験場では従来よりの經營事業である琵琶湖産源五郎鮒の大沼移植を本年度に秋頃に於て實施すると云ふ事である。

會報

昭和三年度本會事業計畫

一、會報發行

昭和四年一月ヨリ鮭鱒彙報ト題シ隔月一回發行シ、本會ノ目的達成ニツトメムトス。

二、標本ノ作成頒布

鮭發育順序標本ハ教育界、並學術界ニ對シ貴重ナル資料ナルモ之レヲ多量ニ供給スルモノナク常ニ遺憾トセラハ、所ナルヲ以テ本會ニ於テ之ヲ實施セントス。

三、やまべ養成試験

孵化場ノ養魚池ハ夏期ヨリ初冬ニ至ル間ハ空シク放置セラル、ヲ以テ之ヲ利用シ、其ノ收益ヲ以テ孵化場ノ經營ヲ補助スルハ適切ナル措置ト信セラハ、モ其ノ實施ニハ幾多ノ研究事項アリ直チニ普及セシムルコトハ能ハサルニ鑑ミ本會ニ於テ千歳孵化場養魚池ヲ借用シ本試験ヲ爲サムトス。

四、印刷物ノ刊行

本年度ニ於テ鮭鱒孵化事業ニ對スル有益ナル印刷物ヲ刊行セントス。

昭和三年度本會收支豫算書

收入ノ部	總額
金壹千貳百四拾圓	
内 譯	
會費 一種會員會費一、〇〇〇圓	
二種會員會費 一、四〇〇圓	
雜收入 利息其他	
支 出ノ部	
金壹千貳百四拾圓	
内 譯	
總額	

諸給 手當寄稿謝禮	
旅費、常用品費、通信	
事務費 運搬費	
會報費、會議費、標本	
作成費、出版費、養魚	
試驗費、宣傳費	

役員決定

本會々則第六條及第七條に依り役員左の如く決定せり	
會 長	北海道廳産業部長 内 藤 晴三郎
理事 長	北海道廳水産課長 小 石 季 一
理 事	北海道水産試験場長 森 脇 幾 茂
理 事	北海道廳水産課技師 半 田 芳 男

職員任命

本會々則第八條に依り左記職員を任命せり	
事務及編輯	北海道廳水産課員 谷 脇 重 助
技術及編輯	同 齋 藤 光 雄

同 野 田 信 俊
 同 山 木 宗 信
 同 下 間 治
 同 菊 地 助
 技術 北海道廳千歳孵化場長

會 告

一、寄稿歓迎

本會は會員たると否とを問はず鮭鱒孵化事業に関する論説、資料、文藝は勿論、會員諸君の情報、その他参考となるべき事項大小に關せず御投稿を歓迎致します。奮つて御寄稿を御願ひ致します。

原稿用紙は二十六字詰のものを御使用下さい尙本會へ御請求下されば御送呈致します。

二、質疑應答

本會は鮭鱒孵化事業に関する諸種の質問に御答へ致します御遠慮なく御申出下さい。

三、受托事務

本會は鮭鱒孵化事業に関する各種の設計、鑑定その他願書類の作成の委託に應じます。料金は左の通りです。

- 一、鮭鱒族孵化場又は養魚池の設計
 - 鮭鱒人工孵化場 一件につき三十圓以上
 - その他 一件につき十圓以上
- 二、養殖用器具の設計又は鑑定 一件につき五圓以上

三、養殖用水族の鑑定 一件につき一圓以上
 四、養殖に關する願書類の作成 一件につき一圓以上
 右の他實地調査を要する場合は之れに要する實費を申受けます。

四、廣告引受

本會は會員其の他の方々の御便宜を計る目的を以て左の料金に依つて廣告を御引受致します、御希望の方は本會宛御申込下さい。

廣告料

一頁 一回十圓 半頁 一回五圓
 四分ノ一頁 一回二圓五十錢 八分ノ一頁 一回一圓二十五錢

尙寫真版入りの場合は右料金の倍額を申受けれます。

五、會員募集

孵化事業に關係を有するもので未だ入會して居らない向に對しては會員諸君に於て極力御勧誘の上入會方御盡力を願ひます。

六、孵化場寫真募集

本誌口繪として孵化場又は孵化事業に關係を有する寫真を毎號掲載致し度いと思ひます。御持合の寫真(なるべく原板)御寄贈を願ひます。

祝 發 刊

鮭鱒孵化用器具ノ

御用命ハ是非!!弊店へ

- 一、鮭、鱒、鮎、鯉、孵化盆及同枠
- 一、同孵化槽、受卵器
- 一、アスファルト(流動)塗料
- 一、テレピン油、各種染料
- 一、龜(甲)紗(卵掬用)海綿
- 一、醫療藥品、工業藥品、高名賣藥
- 一、山本藥院製劑衛生材料

孵化用器具製作發賣元

父子堂 山本勝見藥舗工作部

札幌市北三條東六丁目(電停前)

電話 二五二七七番

振替 小梅三九七八番

定 一冊 參拾錢 郵稅貳錢
 價 六冊(一ヶ年分)壹圓八拾錢 郵稅不用

昭和四年四月廿五日印刷

昭和四年五月一日發行

札幌市北六條西六丁目二番地
 編輯兼發行人 齋 藤 光 雄

札幌市北一條西六丁目一番地
 印刷人 大 谷 木 茂

札幌市北一條西六丁目一番地
 印刷所 文昭堂印刷所
 電話 三二八五番

札幌市北三條西六丁目
 (北海道廳水産課内)

發行所 北海道鮭鱒孵化事業協會
 電話 二六三〇(内線五七番)
 振替口座 水梅二一四八番

祝 創 刊

鮭 鱒 孵 化 器 一 式
製 造 販 賣

大 林 長 兵 衛

札幌市北四條西七丁目一番地

電話 一四五一番